

66回生 学年通信 9月号

★ 2学期スタート 「高校最後の～」を大切に

異例の短い夏休みも終わり、2学期がスタートしました。言うまでもなく2学期は進路を決める大切な時期です。就職は求人数3割減と言われる中、本校は一定の求人いただき、例年と変わらない企業を受験できることになりました。ただ倍率が例年より高くなる可能性があります。この1ヶ月余りベストを尽くしてください。進学も希望者が増え、校内選考も激しさを増すと思います。いろんな可能性を想定して、どれだけ計画的に準備するかが大切です。

行事もすべて「高校最後の○○」とつきます。コロナ禍で中止や縮小される事も大いに考えられますが、体育大会、球技大会、文化部発表会、順延されている春季遠足など、一つ一つ大切な思い出をつくって欲しいと思っています。部活動も夏の代替試合で引退となった選手もいれば、秋の大会を残す人もいます。この状況だからこそ最後まで燃焼してください。

三学年より

古林愛理さん(6組)がミライモンスターで紹介されました。

陸上競技部の古林愛理さんが、8月23日のフジテレビの人気番組「ミライモンスター」で紹介されました。4m03cmを跳び、女子棒高跳びのU18の記録を塗り替えた7月23日の兵庫県高校ユース対校選手権(高校総体代替大会)を中心に、古林さんの負けず嫌いの性格やスマホに毎日の練習の様子を書き込み、課題を明確にしている点、小学生時代の体操で養われた体幹の強さや顧問の山村先生の手作りの施設を使った練習方法で、記録をグングン伸ばしているところなどが紹介されました。



古林さんのコメント:「番組を見てモチベーションが上がりました。10月1日の日本選手権優勝、4m30cmクリアをめざして頑張ります。」

2020年甲子園高校野球交流試合 桐生第一(群馬県)に勝利

春の選抜大会に替わる交流試合が甲子園で8月10日から行われました。本校は16日(日)に夏の選手権の代替試合でも群馬県で優勝した桐生第一高校と対戦しました。行き詰まる投手戦の中、6回に井上君のタイムリーで先制。8回には代打の山口君のヒットで追加点を奪い、9回の桐生第一の反撃を1点に押さえ3-2で勝利。有終の美を飾りました。



・主将を務めた来田涼斗君

「チームをまとめるのに最初は苦労しました。主将として波を最小限に抑えることに気を遣いました。甲子園はいい経験でやりがいと達成感を感じました。」

・完投した中森俊介君

「交流試合はチームにとって区切りのいい機会になりました。選抜が中止でもややした気持ちも整理できました。試合は感謝の気持ちをもってやりました。完投できたのはベンチでサポートしてくれた仲間や3年生のみんなのおかげです。」

・攻守に活躍した井上隼斗君

「1回のサードの捕殺は、最初から想定して守っていました。先制のヒットはランナーを返そうとする気持ちが強かった。中森が頑張っていたので良かった。」

・決勝タイムリーを放った山口瑛史君

「中森が頑張っていたので、ここで1点入ったら楽になると思って打席に入りました。(ヒットは)狙っていたストレートを思いっきり打ちました。」

◎ 新型コロナウイルス関係

家族など同居者が濃厚接触者になった場合	PCR検査等の結果が出るまで自宅待機(出席停止)。陰性となれば登校。
家族など同居者が感染した場合	PCR検査等を受ける(出席停止) 陰性でも2週間程度の自宅待機(出席停止)
自分が発熱等の症状がある	自宅療養。必要に応じて受診(出席停止)